

持続可能なお寺を目指して

～ お寺と相性のよい太陽光発電 ～

浄土真宗本願寺派総合研究所
寺院活動支援部〈過疎地域対策担当〉

宗門総合振興計画の「基本方針Ⅲ・宗門の基盤づくり」の一環として、「持続可能な寺院のあり方を検討し、運用する」事業において、さまざまな寺院の事例調査を行っています。

今回は、北海道美唄市にある常光寺さんを訪問しました。すでに、さまざまな媒体で紹介されていますが、太陽光発電を積極的に展開されているお寺です。今回は、太陽光発電を始めた経緯、継続していく上でのご苦労、リスク、お寺で始める方向けのアドバイスなどをお聞きしました。

「地域、お寺や門徒さんの状況は、どうですか？」

元々美唄は美唄炭鉱があり、石炭が豊かに産出する地域でした。最も多い時には、9万人くらいの人口でしたが、現在は2万2000人まで減少しています。その中に4つの本願寺派寺院があります。うちは今、美唄の街外れに位置していますが、元々は炭鉱の山側にあり、そこから移設された寺院です。市内の門徒さんは、全体の2割ほどで、あとは散在している状況です。車で1時間ほどか

る門徒さんも多く、そこへ月忌参りをしています。元々は50軒ほどの門徒さんがいましたが、今は百数十軒という状況です。

「太陽光発電のきっかけは」

結婚がきっかけになりました。その時、収入がここ10年で3分の2になっていることがわかり、このままだと寺院を維持できないという危機意識が生じました。



「帳簿の数字から危機意識が生じたわけですね」

お寺の帳簿がきちんとつけられていて、そのことで寺院の近い未来を見通すことができました。それによって、早くお寺の危機を感じる事ができたと思います。今思うと、早く行動できたこと、少しでも余裕がある間に動けたことが大きかったです。

「太陽光発電をやってみようと思ったのは何故ですか？」

最初は簡単なことです。お寺はかなり電気を消費するので、庫裏の屋根に小規模の太陽光発電を取り付けたのがきっかけです。実際に小規模で開始して、可能性があると感じました。門徒さんに、太陽光発電をやっている業者さんがいたとか、そういうわけではありません。庫裏に付けてみて、お寺は土地が広いという点、電気をたくさん使う点、自然災害への対応にもなる点などから、お寺との相性が非常に良いと感じて始めました。

「太陽光発電ができる条件について、どう思われていますか？」

お寺に、太陽光発電を設置できる場所があることが、もちろん最低条件です。ただ、あまり大きな場所である必要はありません。50㎡ほどの太陽光パネルを設置できる場所があれば十分です。

「北海道、ましてや美唄のような寒冷地域でも大丈夫なんですね」

意外かも知れませんが、北海道は、東京よりずっと条件が良いのです。気温が高くなりすぎると、太陽光パネルの効率が悪くなるし、この辺りは日射量も決して少なくありません。ネット上に、各地の日照時間を比較してあるので、ご覧になると良いと思います。真宗寺院が多い中国地方や四国地方・九州地方は、年間に発電できる発電量が多い場所です。この辺りは豪雪地帯で積雪は1メートル以上になりますが、傾斜を変えるとあまり積雪も問題になりません。



光発電は廃れるとは思えません。固定買取制度の価格が下がり電気料金を大幅に下回ったということは太陽光発電が他の発電方法と同じ競争力を持ったということ、むしろこれからどんどん増えていくでしょう。

寺院としては数年で太陽光発電、蓄電池や電気自動車を利用した自己消費型に変わっていくのは間違いありません。いえ、もうなっています。

毎日のようにコストダウンしている再生可能エネルギーは電力会社から買うよりも圧倒的に安く電気を自分で作ることができるからです。

一つですが、今後はお寺で作った電気を、お寺で使用することが良いと思います。買っている電気は、北海道電力の場合、1kwhで30円くらいはします。毎月10万円くらい使っているお寺さんもあるのではないのでしょうか。お寺の経費削減につながると思います。

「初期投資が、けっこうかかりますが」

だいたい7〜8年後には投資分を回収できます。それ以後はわずかなメンテナンス費用を除けば、経費なしで電力を売ったり使用したりできることになりました。水力や風力は駆動部分がいたのですが、太陽光発電はそれがないので、修繕費用が非常に安いのが特長です。

「太陽光パネルは、どれくらい使えますか？」

パネルは30〜40年程度はもちます。ですから、10年で初期投資を回収した後、20年とか30年は無料で電気を使えます。パネルは業者さんによって値段が異なります。

「固定買取制度の価格が下がってきていますが、今後の可能性はどうでしょうか」

これから収益事業として太陽光発電を始め収益を出すのは太陽光に精通してないと難しいでしょう。かといって太陽

「お寺は、けっこう電気を使用しますよね」

うちのお寺は、オール電化です。北海道は、特に冬季は電気を大量に消費します。電気を売って利益を出すというのも

ますから、業者さんを選ぶことが大事です。その際、耐久年数（たとえば出力の20年保障とか）も異なるので、それも確認すると良いと思います。

「太陽光発電のリスクはなんですか？」

収益事業としてやると、負担が大きい面があります。設置にかかる初期投資の費用の問題が一つ。そこで今の私がかかわっている会社では、お寺さんが参加しやすいように、初期費用を補助する仕組みを設けています。また、火山の噴火とか異常気象で日照量が減るという可能性などはあります。

「収益事業は難しいということを詳しくお聞かせいただけますか？」

現在、収益事業として太陽光発電を行っています。九州龍谷短大から中央仏教学院へという学歴なので、経営とかの経験は全くありませんでした。そのため、収益事業として始めた頃は知らないことが多

く、失敗も数多くありました。

また、書類の申請など、どうしても税理士さんなどの手助けが必要となります。

「お寺が太陽光発電をやる上で、なかなか踏み切りがつかない面がありますよね」

お寺で使う電力を発電するという考え方で始めると良いと思います。また、お寺の維持が、ご門徒さんへ大きな負担とならないようにするためとお考えいただけます。繰り返しになります。お寺と太陽光発電は相性が良いと思います。特に土地の安い過疎地は、おすすめです。うちの寺では、門徒さんの中から参加してくださる方も出てきています。お寺を護持することにつながることを理解し始めていただけたように感じます。

「自然災害への対策になりますか」

実際にいぶり胆振地震を経験しました。お寺

は発電しているので、地震があった後も電気を使用することができました。ただ、一日中、停電でも電気を使えるようにするためには、蓄電池が必要となります。今は、蓄電池の値段が非常に高いので、寺では電気自動車の蓄電池を利用していきます。今後、蓄電池が一番発達すると言われていて、今もどんどん安くなっています。蓄電池が手に入れやすくなる、といよいよ太陽光発電が自然災害対策になりますし、自家用としても使いやすいくなりますね。

「ほんとうに太陽光発電とお寺の相性は良さそうですね」

うちのお寺だけでなく、地域の寺院が護持しやすい、持続可能なお寺となることが目標です。地域の人口減少が著しいので、近隣でも困っているお寺があります。今は、自坊だけでなく近くのお寺さんとも協力しながら進めています。最初は抵抗がある方も多かったのですが、今は賛同者が増えました。ちなみ

に、門徒さんとも、太陽光発電の話をするようになりました。その中から参加してくれる門徒さんも出ていて、門徒さんにも配当を出しています。地域が、お寺と共に共存していける状況が生まれたら、一番の喜びです。

「今後の展望についてお聞かせいただけますか？」

現在は宗教法人で5つの発電所、合同会社で5つの発電所、あわせて10カ所の発電所を所有（一般家庭1500軒分の発電量）するまでになり、寺院の収入も倍になり経営も安定しました。

今はこの資金を内部留保するのではなく、社会に還元するため、太陽光パネルのリース事業や家族葬用に寺院の改修、高齢者専門の弁当宅配事業を計画しているところです。

各寺院と連携し長期間休みを取れるシステムの構築、寺院に役立つアプリ開発（お盆参りの効率的なルートを自動で作成してくれるなど）も行ってみたいですね。

いろいろな寺院向けアプリなんかは寺院活動支援部で作ってくれたら一番いいと思うのですが。

将来的には20年後の目標として、太陽光発電所を利用した無農薬で天候に左右されない年中安定して栽培できる野菜工場、果物、米栽培、全自動酪農。介護保険に頼ることなく持続可能な老人施設などお寺を中心とした地域に根ざした活動を目指しています。

おわりに

お寺に到着した時、植木の世話をしているご老人と出会いました。この地域では、冬は積雪が1メートルになるので、植木に、囲いをする作業が必要なのです。私は、てつきり業者さんかと思ったのですが、なんと88歳の前任職が作業されていたのです。裏の山の植木、広いお庭の植木を前任職が一人でなさっているそうです。見事にお庭が整えられていて、参拝されるご門徒さまも喜ばれるだろうなあと感じました。

また、常光寺さまは、とても見やすいHPを作成されています（<http://www.joukouji.com>）。そこにはたくさんの方の行事情報がアップされています。日曜学校も、周囲に子どもさんが少なくなっている中、10人の子どもが参加されているそうです。寺地を移動した時、いつとき、たった一人になった時もあったそうですが、それでも粘って継続してきたとお聞きしました。寺の門前にある掲示伝道の板には、子どもたちの書道が貼られていました。「とても、いいなあ」と思いました。

このように、常光寺さんは、お寺として活発な活動をなさっています。そのマインドは、どこから来るのですかと住職にお聞きしたところ、「それは、空知南組その組活動の伝統ですかね」というお答えでした。各寺院が活発な活動を展開し、情報を共有し刺激しあっているそうです。「パイオニア精神」が今も生き続いているように感じられました。

社会の変化のスピードが速い中でも、



長年変化することなく維持されてきたお寺は、なかなか違ったことを始めるのに抵抗感が強いようです。そんな中、バイオニア精神が息づく地域であること、また活発なお寺の活動を門徒さまのために進めていきたいというマインドが強かつ

たからこそ、変わらずお寺が存続するために「変わらなくてはならない」という判断がなされたのかなあと感じました。最後になりましたが、長時間のインタビューにご対応いただいた常光寺のご住職、杉田英智さまには、心よりお礼申し上げます。

太陽光発電についてお尋ねしいことがある場合は、常光寺さんHPからお問い合わせください。
<https://www.joukouji.com/> お問い合わせ

※設置費用は、様々な条件によって異なりますので、実際に見積もりしていただく必要があります。また最近では、設置費用を事業者が負担し、割安な電気料金で電気が提供される「電力購入契約」(PPA)というものもあります。